

福島第一原子力発電所

5/6号機共用排気筒放射線モニタにおける一時的な欠測について

< 参 考 資 料 >
2 0 2 0 年 3 月 5 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

【概要】

- 本日（3月5日）午前9時52分頃、5/6号機共用排気筒放射線モニタのサンプルポンプ（B）が自動停止し、同ポンプ（A）が自動起動しない状態となりました。その後、午前10時18分に同ポンプ（B）を手動起動させ計測を再開しました。
- これに伴い、午前9時52分～午前10時18分の間、5/6号機共用排気筒放射線モニタにおいて欠測が発生しました。
- 同ポンプ（B）が停止した原因は、当社社員が5/6号機共用排気筒放射線モニタ（A）の校正作業を実施していた際に、5/6号機共用排気筒放射線モニタ系統の弁を誤って閉じてしまったことにより、5/6号機共用排気筒放射線モニタ系統を流れる空気量を測定する検出器が「系統流量低」を検知し、同ポンプ（B）保護のため自動停止したものです。
- また、同ポンプ（A）が自動起動しなかった理由は、同ポンプ（A）は同ポンプ（B）と並列に設置しており、系統自体は同じ系統であることから、起動しなかったものです。
- なお、当社社員が5/6号機共用排気筒放射線モニタ系統の弁を誤って閉じてしまった原因は、5/6号機共用排気筒放射線モニタ（A）を系統から隔離（入口弁を閉）し、迂回する系統（バイパスライン）、及び校正作業の系統を構成し、校正作業を行っていたところ、校正作業における配管流量が過去の校正作業に比べ高かったことから、校正作業を一旦中断し、改めて校正作業の系統を構成するところ、誤って、迂回する系統（バイパスライン）の弁を閉じてしまったことによるもの（ヒューマンエラー）です。
- なお、同ポンプ自動停止前、停止中、手動起動後における5/6号機排気筒放射線モニタ、敷地境界モニタリングポスト・ダストモニタ、ならびに構内ダストモニタの指示値について有意な変動が無いことを確認しており、環境に影響はありません。
- 今後、5/6号機共用排気筒放射線モニタ（A）の校正作業において、過去の配管流量より高かった原因を調査するとともに、ヒューマンエラーに至った原因について深掘りを進め、適切に再発防止対策を講じてまいります。

【参考】時系列、5/6号機共用排気筒放射線モニタシステムイメージ

【時系列】

3月5日

午前9時00分 現場到着

午前9時05分 中操作業開始連絡

午前9時05分 環境ミニコンA系隔離操作を連絡

午前9時10分頃 バイパス、パージライン構成用仮設ホース接続・弁操作を実施

午前9時35分 バックアップ装置真空ポンプ起動・停止。流量が通常より高かったため流量調整弁の操作を実施したが流量が下がらなかった。原因確認のため計装部門へ連絡

午前9時43分頃 配管接続状態確認のため、バイパス弁を全閉し仮設ホースのカプラ取外しを実施

午前9時52分頃 ポンプ（A系）及び（B系）の両系停止を確認

午前10時18分 ポンプ（B系）の復旧

午前10時30分 同排気筒放射線モニタの欠測と判断

【システムイメージ図】

